

**横田基地問題  
を考える会**

**ニュース No. 72**

連絡先  
電話&FAX 042-531-4471  
ホームページ アドレス  
Yokota-peace.sunnyday.jp

# 中学校新教科書 の採択を前に

**糀谷陽子**

都教組専門委員、子ども全国センター事務局次長、  
子どもと教科書全国ネット 21 事務局長



## 今年の夏に中学校 の教科書採択

今年の夏、全国の教育委員会で中学校の教科書の採択替えが行われます。小・中学校の教科書は4年に一度、新しいものが編集され、文部科学省の「検定」を受けて採択されることになっています。教科書の採択は、25年前までは学校の先生たち

が内容を比較検討し、「この教科書を使いたい」という報告書を出し、それに基づいて決定していました。それが、2001年度の採択の時に、「新しい歴史教科書をつくる会」が編集した、侵略戦争を美化して憲法「改正」を主張する、間違いだらけの社会科（歴史・公民）教科書が参入した時に、数人の教育委員が決める方法に変えられてしまいました。

それに対し、各地の教職員組合や保護者・市民が「戦争賛美の教科書を選ばず」という声を上げてきました。今は不十分ではありますが、学校から報告書を提出したり、保護者や市民が展示会に行き教科書を見比べ、意見を寄せたりすることができるようになっています。

## 今の教科書は、政 府の広報誌のよう

心配なのは、この25年の間に教科書の種類が減り、問題のある記述が増えていることです。昨年の夏、小学校の教科書の採択が

行われましたが、その内容を見て問題だと思ったことをいくつか紹介します。\*領土問題について、どの教科書も「日本固有の領土」、「ロシアや韓国が不当に占拠している」など、政府の見解通りに書かれている。

\*戦争中、中国・朝鮮の人々を「強制連行した」が、「動員された」に変わった。関東大震災時の中国・朝鮮人虐殺の記述が無くなった。

\*国民主権の頁なのに、天皇のことやその写真が大半を占めており、主権者国民の役割は選挙で投票することだけに絞られている。

\*平和主義の頁から「核兵器廃絶」や「非核三原則」の言葉が無くなってしまった。他にもたくさんあり、「普通の教科書が『つくる会』の教科書みたいになっちゃった」という声が上がったほどです。これは、2014年の教科書検定基準改悪で「閣議決定など政府見解の通りに書く」と

「強制連行という言葉は教科書の用語として不適切」という閣議決定によって、記述の修正が強要されたりしたことの影響です。また、2021年末に閣議決定された「安保三文書」には「郷土や国を愛する態度を養う」ことを求める記述があります。この閣議決定は小学校教科書の編集が終了した時点でしたが、「教科書全体に、愛国心の記述が不適切」と検定意見がついて修正された教科書がありました。中学校の新教科書にはもっと大きな影響が及ぶのではないかと危惧されています。

## 子どもたちによ よい教科書を

新教科書の検定内容の公表は3月末。5月〜7月には、各地で教科書問題の学習会が開催され、各地の教育センターなどで展示会が開催されます。主権者として生きる力をつけることのできる、よりよい教科書子どもたちに手渡せるよう、みんなで声をあげていきましょう。

# 新春 ビッグ対談②

**島田** 「横田基地もいらない」という座り込みは、最初変なことを言うなど言われたことはあった。北海道でもどこでも自分達が住む町から米軍基地、安保体制をなくそうという運動をやるのが沖縄とも連帯することになり、政治を変えていくことになると思う。

**盛岡** 私達の座り込みの運動はアメリカの戦略の変更によって横田の機能がどんどん悪く強化されていく。(私達の運動は)なんの歯止めにもなっていないのはその通りだが、横田が変化してきたことを多くの人に知らると同時に、沖縄と同様あきらめずに抵抗を続けていくことが大切だと思う。

**島田** 横田基地には在日アメリカ軍の総司令部があり、そこに航空自衛隊の航空総隊司令部が移ってきて日米共同の統合運用

調整所ができた。日米共同司令部というが、力関係から言って完全にアメリカのもと自衛隊が組み込まれて戦争をするための司令部が横田だといえる。我々としては絶対に許してはならない。横田基地撤去という大きな目標のためこれからももっと運動を強めていかなければならない。いざ戦争になれば、アメリカ軍は横田基地から出撃していくのは朝鮮戦争でもベトナム戦争でもはっきりしている。そうなれば相手国はミサイ



ルや新しい時代の武器で米軍横田基地を攻撃することが考えられ、横田基地周辺は完全に戦火にまみれることになる。周りの住民はこんな危険な基地だということを引きちんと意識していないから、不満や不安を感じていても撤去させようという運動にはなっていないのが問題だと思う。僕は砂川闘争の「伊達判決を生かす会」を作り運動をしているが、伊達判決の中で米軍基地が憲法違反で存在が許されないものだという説明の中で、米軍が日本の基地から出撃して戦争になる。相手国が報復攻撃を行うと日本の人民が戦火にまみれ、憲法前文の政府の行為によって再び国民を戦火にさらすことになる。米軍基地の存在そのものが憲法違反だと伊達さんは言った。まさにアメリカの戦争の拠点であり、攻撃されると第一番目にやられるのが横田基地だと考えると、伊達判決を生かすことから言っても米軍基地は

なくさなければならぬ。 **盛岡** 我々の課題としては、今日のように横田の実態や運動のことは論議するが、それぞれの地域で米軍機が飛んできて被害を受けているが、住民にはほとんど入っていないのではないか。私自身近所の人たちに、こたわりなく(基地問題を)話す言葉をまだ



見つけていない。私達が座り込みをし、学んできたことを被害を受けている地域の人たちにどう伝えていくかということが大きな課題。壁を破って気軽にしゃべっていくスタイルを「考える会」としても身に着けていかなければならないのではないかと。 **島田** 国民の意識というのは、これほど自民党政府

がひどくても国民の3割程度が政権を支持している。砂川闘争で「心に杭は打たれない」と団結してきたのだが、あまり知られていないことだが、青木市五郎さんの土地を返せという裁判をやって伊達判決につながった。青木さんの土地返還裁判で榎本弁護士や三多摩法律事務所の川口弁護士が一生懸命やってくれた。

青木さんは戦後、米軍にとられた土地を返せという要求から裁判をやり、その後米軍が返しますというところで裁判に勝った。米軍に滑走路の舗装を撤去させ土地を埋め戻させ元通りにして返せと最後まで主張し、裁判所は返還しろという判決が出そうだったが、青木さんの(元に戻せという)条件が飲めない。地位協定では土地を返還するときは元通りにしなくてもいい、そのために米軍は金を負担しなくてもいいと書いてあることに青木さんは怒って「人にものを借りたら元通りに

通りにしなければ認めない。」とって頑張った。最終的に米軍は日本政府に返還し、政府が国の予算で滑走路の舗装を撤去し元の畑にして青木さんに返したという和解だった。しかも土地を返すだけでは意味がなく立川市の市道から青木さんの土地まで自由に通れる囲繞地(いにようち)通行権と無償で永久的に車で通れる幅の道路を造る、さらに返還するまでの地代も支払うという和解だった。青木さんの土地は1976年に返



還され、青木さんは100%勝った。統一と団結で砂川闘争に勝ったというのが青木さんの主張だった。全国のみんなが統一して応援してくれたので砂川闘争が勝てた。

—現在の岸田軍拡やウクライナ、ガザの状況についてはどのようにお考えですか—

**盛岡** 横田基地に反対しているのに今物凄く横田基地は膨張して迷惑をかける存在になっている。平和憲法を守り、9条の理念を盛り立てていこうという運動に関わってきたのに、世界ではウクライナで戦争が始まり、今度はパレスチナでも戦争が始まった。これはいったいどうしたことだという思いだが私



達が出来ていることは正しいことなので、言い続けて少しでも支持する仲間を増やしていくことが大切。短期的には世の中があれさけるほど悪くなっている。ガザでの虐殺は止めさせないといけないし、ウクライナからロシアを撤退させないといけないというのとは間違いない。

先は長くないが周りの人たちに横田の運動への共感をいかに増やしていくかを考えていきたい。これからもうそういう経験の交流を続けていきたい。

**島田** ウクライナもそうだが今イスラエルがやっている戦争を見ると、戦車や銃で攻撃している先には生きてる人間がいるんだということや胸が痛くなる思いでテレビを見ています。盛岡先生も言われたように、日本政府もアメリカとくっついて同じようなことをやっている。太平洋戦争の時僕は子供だったので国民の意識はわからないが、今は小さくても全国でこんな戦



争はやってはいけないう運動があるわけなので、これは太平洋戦争のときはほとんどなかったこと。政府がどんどん軍拡をやり、戦争政策を進めているが、どんなに小さくても自分たちができる限りの運動をやって戦争反対という声を上げていくという決意はなくてはならないと思う。考える会として日常的に市民に訴える活動をやっていかなければと最近思う。

**盛岡** 我々が持っている視点というのとはとても大切だと思う。立川昭島市民に安保でつくられ、環境を壊している横田というものを許さないという世論を着実に広げるためにも、仲間を増やすという視点を

大切に、会員をふやしていきたい。  
**島田** 昨年作った横田パンフは色々なことを考えてもらいう意味ですごく大きな力を持っている。(横田関係の)いろいろな資料はあるがこのパンフは傑出したものだと思うのでこれからもぜひ広めていきたいと思う。



**盛岡** このパンフを作る上で一番力を発揮した後藤さんがいなくなったが、このパンフは価値あるものとして繰り返し読んで普及していきたい。考える会として世話人を中心に会員の経験を交流していきたい。

※盛岡さん、島田さん貴重なお話しをありがとうございました

# 朝鮮学校への補助金復活を 平等は平和を 差別は暴力・戦争を

昨年10月20日、立川市のリスルホールの小ホールで「子どもの『人権』勉強会&シンポジウム」が開催されました。

この勉強会は、二〇一〇年に石原都知事(当時)によって打ち切られた朝鮮学校への公的助成金の凍結解除、一日も早い復活の実現を目指したものです。

東京都は一九五五年に「外国人学校の教育条件の維持向上及び外国人学校に在学する生徒にかかわる就学上の経済的負担の軽減を図る」ことを目的に教育補助金の制度を確立・実施してきました。

その理由は「都内に在住する外国人は、都民として納税の義務を負っており、教育費の一定額を補助することにより、教育の充実と負担の軽減を図ることが適当である」としています。

石原都知事はこれを無視して都内に一〇校ある朝鮮学校への補助金を突然停止し十二年の間朝鮮学校は極めて困難な状況に置かれています。

二〇二一年に「東京都子供基本条例」が満場一致で採択されました。

朝鮮学校への補助金の不履行はこの条例に違反するものであり直ちに解決されな

ければならない課題となっており、この集会で「立川には76年の歴史を持つ朝鮮学校がある。子供た



朝鮮への帰国者による『朝日両人民友好親善万歳』の碑 リスルホール横公園

ちへの差別をなくすために大人たちの責任で署名を起こそう」という呼びかけが行われ「『子供基本条例』都議会勉強会」で受け止められ「都民署名」が始まり、3ヶ月で一七六四〇筆の署名が集まり2月20日、都知事あてに提出されました。

この取り組みは、直接的には朝鮮学校への補助金打ち切りの凍結解除を目的とするものです。現在、様々な差別が問題になっていますが、日本人にとつて、朝鮮の人々に対する差別の問題は、国民が克服しなければならぬ特別の課題です。

明治政府は当初から、朝鮮侵略をたくらみ、明治8年にはカンファド(江華島)事件を起こし、江華島の砲台を艦砲射撃で破壊しヨンチヨンド(永宗島)に上陸し、民家を焼き、朝鮮人35人を殺害、大砲38門を戦利品として奪っています。その後、不平等条約を

押し付け、外交権を奪い、軍隊も解散させ、言葉も奪って、35年にわたる暴虐な植民地支配を行いました。国民には、朝鮮の人々への差別・賤民意識を植え付けました。

日本は、徴兵制で失われた労働力を補充するため、朝鮮の人々を強制的に日本に連行し、炭坑や鉱山などで過酷な奴隷労働で強制しました。終戦時には236万5千人にもなっていました。

朝鮮の人々への差別的風潮は、現在も野蛮なヘイトクライムとなり深刻な社会問題となっています。小池都知事は関東大震災関東大震災で起きた亀戸事件の慰霊行事への追悼文を今年も拒否しました。

差別のない日本への道は、歴史を正しく学び、朝鮮の人々への差別意識を、日本社会が克服することが避けられない課題とされています。(文責 河野詮)

# 「多摩地域のPFAS汚染を明らかにする会」の活動について

2019年、米軍横田基地周辺のモニタリング井戸から、高濃度の有機フッ素化合物PFAS1340ng(ナノグラム)／Lが検出されたという報道があり、沖縄の米軍基地からの被害と同様に、多摩地域でも横田基地からのPFAS被害が隠され続けていたことがわかりました。最初はPFASについての知識もなく、大騒ぎの中身もわかりませんでした。が、20年2月羽村市で京都大学の小泉昭夫名誉教授に講演を依頼、初めてその恐ろしさを知ることになりました。

沖縄からの映像や米国映画「ダークウォーターズ」をみて、更にその健康被害の怖さを知りました。長期に摂取することで、肝障害・腎臓がん・甲状腺疾患・



精巣がん・潰瘍性大腸炎等さまざまな障害があることが欧州環境機関等で発表されています。

その後、大量のPFASを含む消火訓練用の泡消火剤が、10年ごろから数度にわたって横田基地から流れ出ていたことがわかり、横田基地周辺に住む私たち住民にも、不安がじわじわと迫ってきました。

22年8月に「多摩地域のPFAS汚染を明らかにする会」を立ち上げ、約半年がかりで三多摩のすべての自治体で791人の血液検査を行い、京都大

学の研究グループによって結果が出されましたが、ほぼすべての自治体で健康に被害があるとされる基準値を超えていることがわかりました。

23年夏から秋にかけて、各市で150カ所を超える地下水、河川、井戸水の調査を行い、京都大学が分析、高濃度汚染の実態が明らかになりました。その結果を記者会見で発表し、マスコミ報道もたびたび行われるようになりました。三多摩では、立川、国分寺、国立、昭島、東大和など多くの市でPFAS汚染を明らかにする会が作られ、今後増えていくと思います。

それぞれの自治体ごとに各地域で学習講演会を重ね、映画会なども行い、PFAS汚染の実態を広く知ってもらうことに力を注いでいますが、市民の中全体にはまだまだ浸透していません。

米国や欧州では、限りのな

くゼロに近い厳しい基準値が設定され、使用・製造・輸入も禁止されています。PFASの被害は、第二の水俣病にもなりうると言われていますが、日本は正式に規制値を決めないばかりか、2月初めに現在の暫定基準値をさらに改善するような案が出され、パブリックコメントを国民に求めています。その期間はわずか1カ月、3月7日を締め切りとしています。そのまま決まってしまうと、アメリカの666倍、欧州の200倍という基準の甘さです。



国民の命を守るという立場に立たず、経済安保の観点から半導体分野などでPFASを必要とする企業の求めるまま、ゆるい指標値を提示しているのだと思います。世界で健康が懸念されているレベルが、日本では安全だとするのは、企業への忖度にほかなりません。欧州食品安全機関は、日本の食品安全委員会が出した基準の60分の1未満の許容量です。世界が厳しい基準になっているときに、日本もそれと同じように厳しい基準を設けるべきです。逆行する指標値を出すことは許せません。子どもたちの未来に汚染のない安心して飲める水を手渡すために、できる限りのことをしていきたいと思えます。

各市で署名活動が進められています。ぜひご協力をお願いします。

(文責井出由美子)

## —編集委員から—

○会員の皆さんからの原稿を募集しています。日頃感じていることや基地問題、平和への思い、旅のエッセーなど1000字前後でお気軽に投稿してください。絵手紙、短歌、俳句も歓迎します。投稿は手紙、FAX、メールのいずれの方法でも結構です。

宛先: 〒190-0033 立川市一番町 6-17-1-20-305 佐々木憲幸

メール: [snmtys@beach.ocn.ne.jp](mailto:snmtys@beach.ocn.ne.jp)

TEL、FAX: 042-531-4471

○機関紙の発送を郵送ではなくメールで希望される方はお申し出ください。

※前号の新春ビッグ対談の中で、2ページ1段目の後ろから8行目、「中村隆一弁護士」は「中村高一弁護士」の誤りでした。訂正しておわびします。

つら

## 右翼青年も 政治に不満

「がんばってください」

### オスプレイ配備反対に快く署名

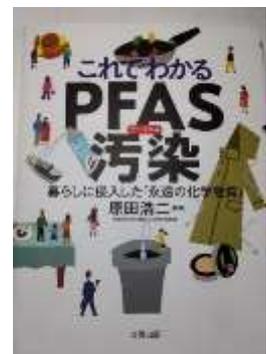
3月3日立川駅北口でオスプレイ反対の署名を呼び掛けていたところ、スーッと近寄って来た男性。署名をしてから「実は右翼です。」と。なるほど黒メガネ、黒マスク、服装も黒づくめ。「自民党って愛国主義じゃないよね。アメリカ言いなりで売国的」と私。その人は大きくうなずいて「北方領土も投げ出しちゃってるし」と不満顔。「サンフランシスコ条約で放棄しちゃってー。元々樺太、千島交換条約で日本の領土なんだから返還させなきゃ」と言うので我が意を得たりという感じで「頑張ってください。」と激励された。右翼青年も今の自民党政治には大いに不満を持っているようだ。(文責・清水多恵子)

## —話題の書籍—

## 『これでわかる PFAS 汚染』原田浩二 編著

—暮らしに侵入した「永遠の化学物質」— (合同出版 1300円+税)

発がん性が指摘され永遠の化学物質と呼ばれる有機フッ素化合物PFAS(ピーファス)による地下水や土壌汚染が全国的に問題となっています。PFASは水や油をはじき、熱にも強い特性があるため、フライパンや防水材泡消火剤など様々な生活用品に使われてきました。米軍横田基地から漏出したPFASで多摩地域の地下水が広範囲に汚染され、地域住民の血液からも検出されて大問題になっています。著者は長年PFAS汚染調査チームに参加し、市民の血液検査にも協力してきました。本書ではその経験を踏まえ、PFAS汚染の原因や現状、課題などについて、わかりやすく解説しています。本書の最後で著者はPFASに限らず環境問題で重要なことは市民と研究者が連帯することだと締めくくっています。



## —「横田基地問題を考える会」第15回総会のお知らせ—

日時: 2024年6月2日(日)13時30分～

場所: 立川リスルホール地下1F サブホール

記念講演: 「土地利用規制法とは何か」(仮題) 講師 平和元 弁護士